

## 〔付〕 2. 学校法人 慈恵大学中期目標・中期計画・平成25年度事業計画

### 〔本学の理念・目的・使命〕

- 理念：医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。
- 目的：質の高い医師と看護専門職者の育成と臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- 使命：社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

### 〔本学が目指す将来像（ビジョン）〕

- 社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。

#### 質の高い医学・看護学教育

- (1) 医学・看護学を深く理解し、豊かな人間性を具えた全人的な医療を実践できる医師・看護師・保健師を育成するための特色ある卒前・卒後教育システムを構築する。
- (2) 4 附属病院の特徴を活かした多様な医師・看護師・保健師の育成プログラムを策定する。
- (3) 看護学科と看護専門学校は、協力して看護生涯学修の出発点となる基礎能力の育成に組織的に取り組む。
- (4) 大学院（博士課程と修士課程）教育の充実と改善を推進する。

#### 本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

- (1) 本学に継承されている特色ある研究を発展させる。
- (2) 臨床研究と疫学研究を推進するシステムを構築する。
- (3) 臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- (4) 先進医療を開拓するための医学研究を推進する。

#### 質の高い医療の提供

- (1) 社会のニーズに応えることができる質の高い医療を実践できる附属病院を目指す。
- (2) 安心して安全な医療を提供できる医療システムを構築する。
- (3) 高度で先進的な医療を開発し実践する。
- (4) 医師、看護師および医療職者の技術を向上させるための取り組みを行う。
- (5) 各附属病院の特色を活かして、それぞれの活性化と機能分化を図る。

#### 教育・研究活動を支える安定した財政基盤を構築する。

#### 創立130年記念事業

- (1) 130年記念事業を継続して行う。

### I 中期目標・中期計画期間

平成25年4月1日から平成31年3月31日までとする。

## 〔基本方針〕平成25年度の基本方針と重点施策

### 教育に関する重点施策

#### 質の高い医療人の育成

- ・ 卒前教育の改善と充実を図る。
- ・ 卒後教育を改善して質の高い研修医とレジデントを育成する。
- ・ 看護学科・看護専門学校は、協力して卒業時の技術到達目標を明示する。
- ・ 看護学専攻修士課程は、看護学科、看護専門学校、および看護部と連携して教育者や専門看護師を育成する。

### 研究に関する重点施策

#### 医学・看護学研究の推進

- ・ 各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。
- ・ 再生医学研究をはじめとする、新たな研究分野を開拓する。
- ・ 研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。
- ・ 医療現場と連携して看護学研究を振興する。

### 医療に関する重点施策

#### 医療安全の推進

- ・ 医療安全体制を検証し、さらに有効・効率的な医療安全システムの研究を進め、構築、実践する。

#### 救急体制の充実

- ・ 本院は救急体制を充実させ、新外来棟での救命救急センター設置を目指す。
- ・ 柏病院は救命救急センターとしての機能を強化し、増床計画を進め地域医療への貢献に努める。

#### がん診療の推進

- ・ がん診療に関する専門職者の育成に努め、特に本院と柏病院は、地域がん診療連携拠点病院としての機能強化を図る。

#### 地域医療への貢献

- ・ 葛飾医療センターと第三病院は、地域医療ニーズに応えられるように診療体制の改善充実を図る。

#### 職種間の協力的体制の構築

- ・ チーム医療を構築するための人材育成を推進する。

#### 4 附属病院の評価・点検を行う。

- ・ 本院は特定機能病院として、各附属病院は地域の基幹・中核病院としての役割を担い、その機能を発揮する。

#### 医療経費率の適正化

- ・ 医薬品、医療材料の適正使用、並びに後発薬品の採用を推進する。

### 法人運営に関する重点施策

#### 内部統制の強化

#### 法令遵守の徹底

#### 安定した財政基盤の構築

- ・ 法人における収支構造の点検を行う。
- ・ 機関別の事業計画に基づく中期財務計画を策定する。
- ・ 医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤の構築を図る。
- ・ ICT関連経費の適正化を図る。

#### 情報公開の推進、広報活動の充実

- ・ 本学の教育・研究内容および附属病院の診療内容などを社会にアピールすると共に病診連携、病病連携、同窓会員への情報発信に努める。

#### 大学建築マスタープラン・西新橋キャンパス整備計画を推進する。

#### 大規模災害対策の再整備とBCP（事業継続計画）を策定する。

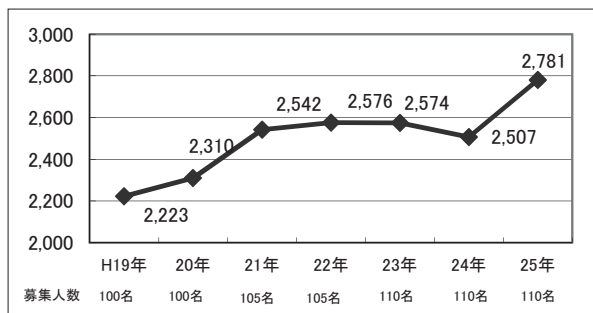
#### 地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。

#### 教職員の職場満足度向上を図る。

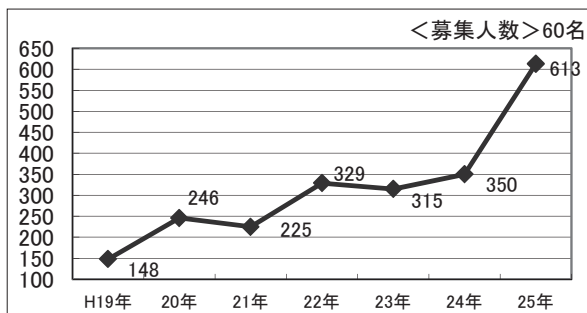
#### 前期間（平成19年度～平成24年度）の中期目標・中期計画を評価する。

■教育に関する重点施策：参考指標

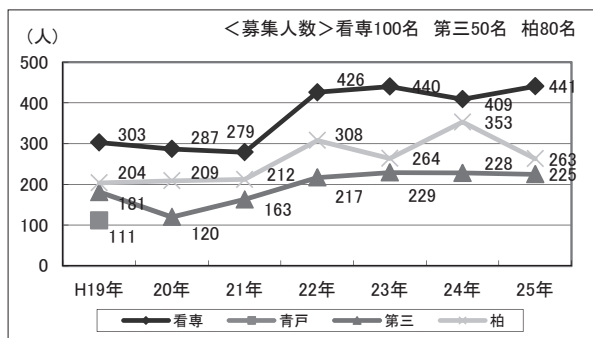
大学志願者数（医学科）



大学志願者数（看護学科）

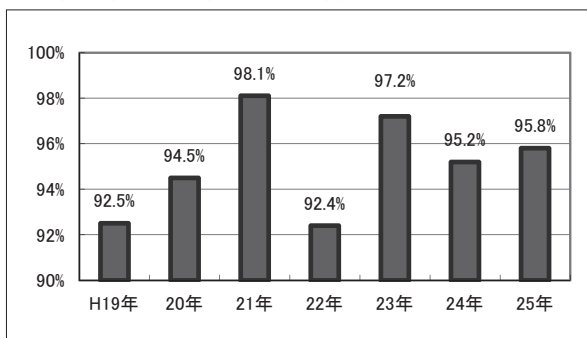


4看護専門学校 志願者数

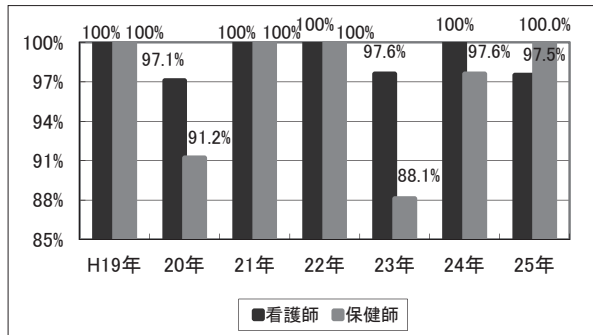


※青戸看護専門学校はH20年度より募集中止

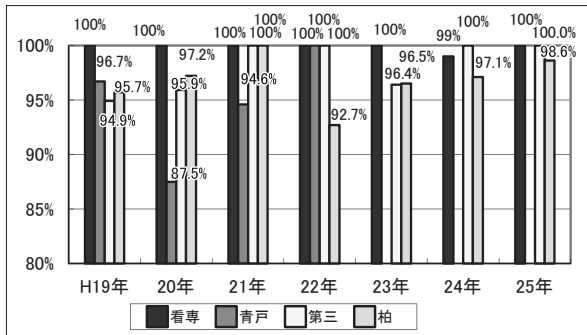
医師国家試験 合格率（医学科）



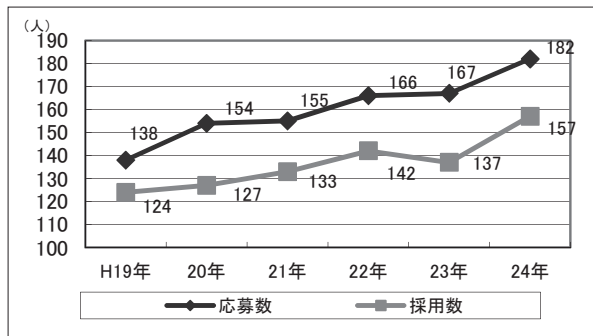
看護師・保健師国家試験 合格率（看護学科）



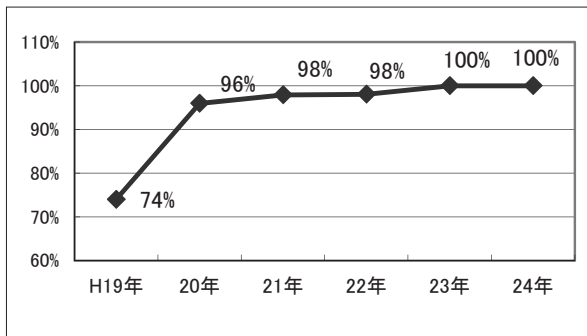
看護師国家試験 合格率（4看護専門学校）



レジデント応募者数、採用数

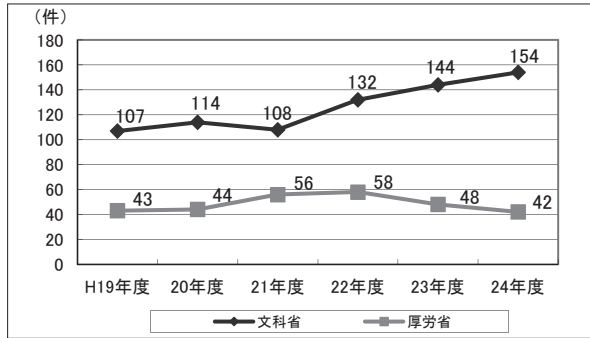


医師臨床研修マッチングによる定員充足率

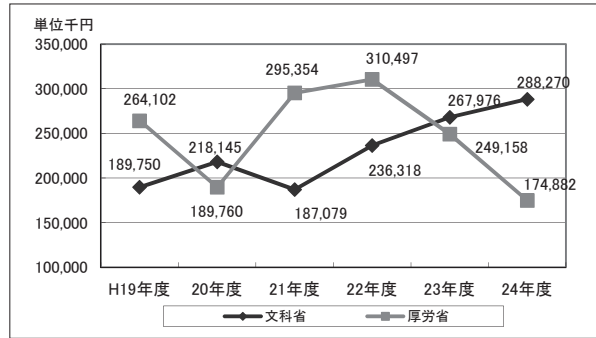


■研究に関する重点施策：参考指標

科学研究費補助金 採択件数

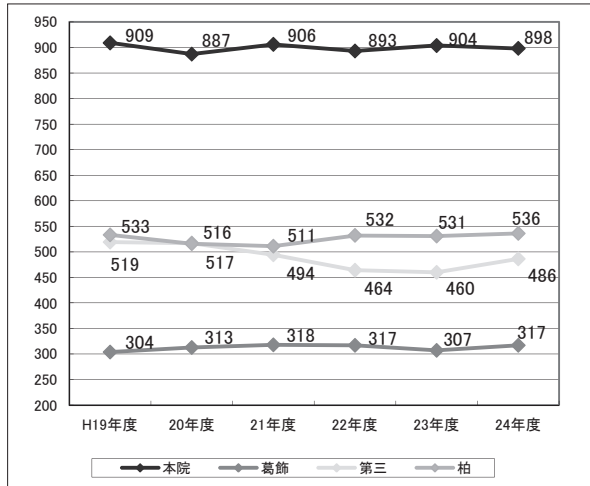


科学研究費補助金 採択金額

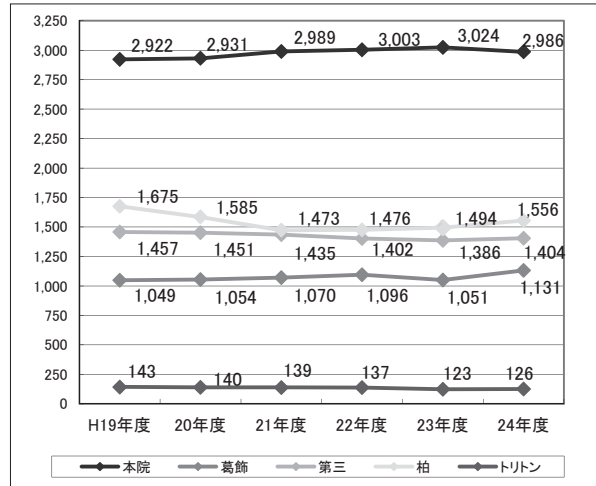


■医療に関する重点施策：参考指標

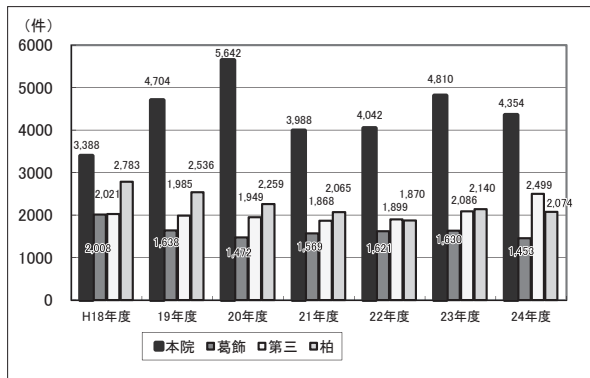
【入院】1日平均患者数



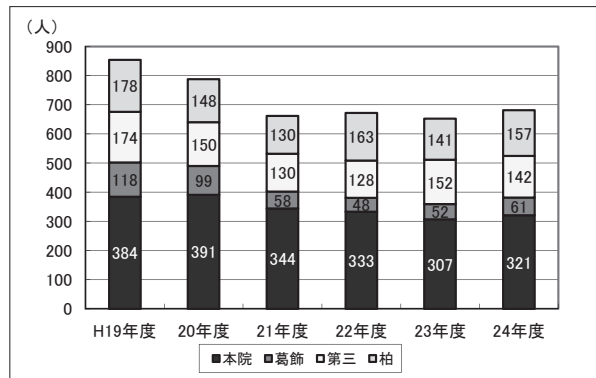
【外来】1日平均患者数



インシデント・アクシデント報告件数

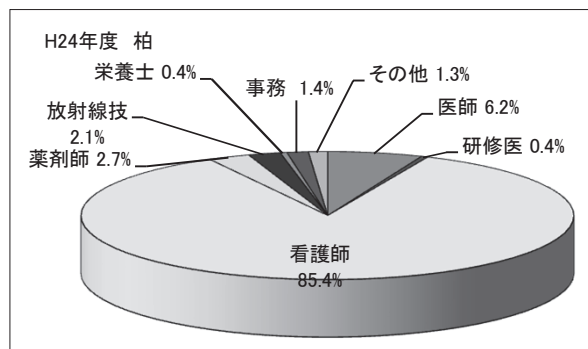
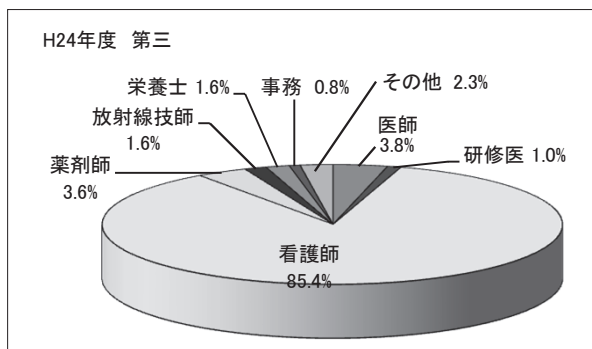
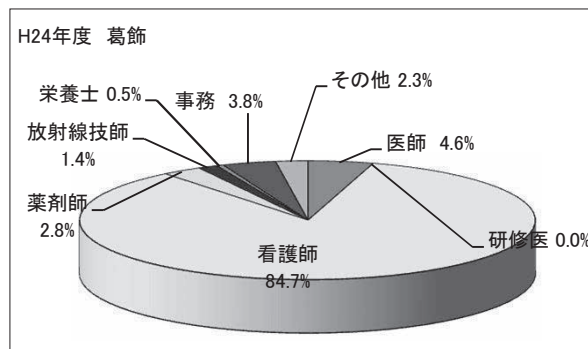
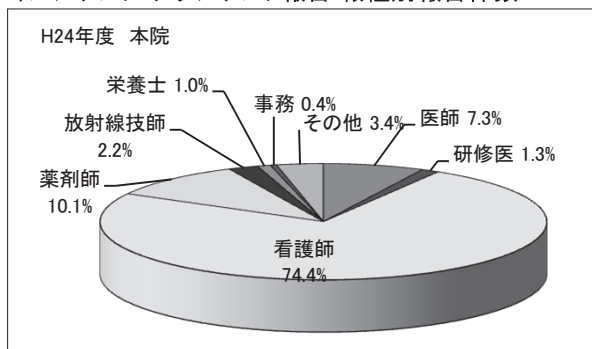


チーム医療構築WG参加者数



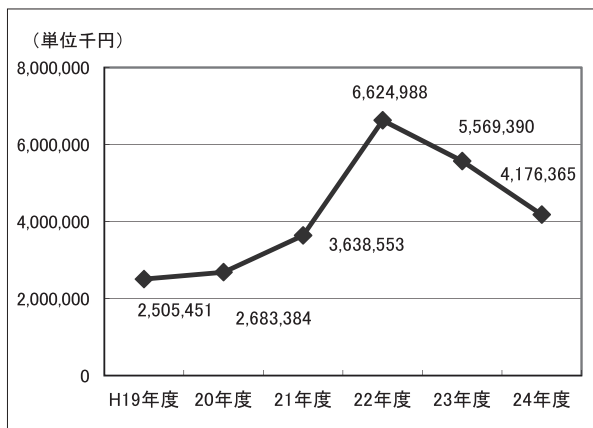
※H21年度の報告件数の減少はオーダリングシステムのクリック忘れを改善

インシデント・アクシデント報告 職種別報告件数



■大学運営に関する重点施策：参考指標

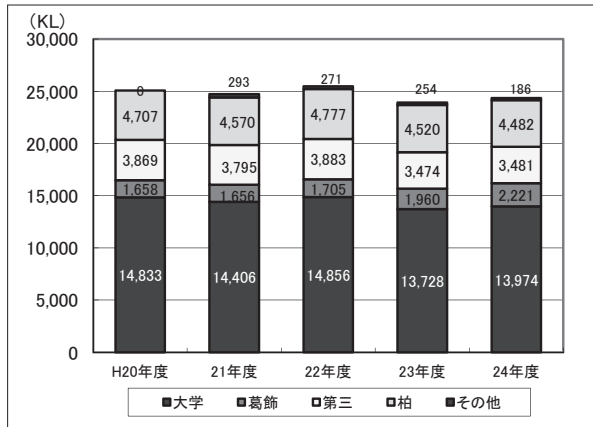
経常収支



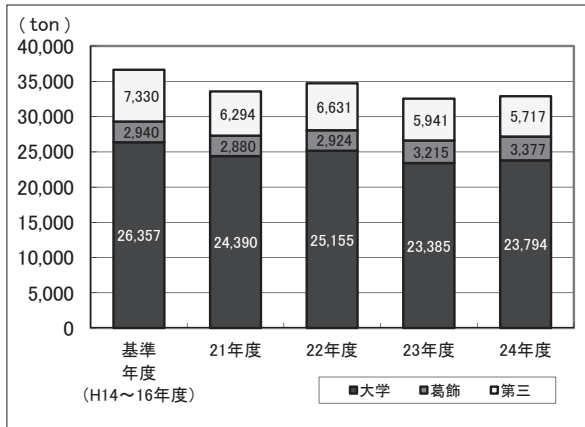
メディア掲出件数



原油換算使用量(省エネ法対応)

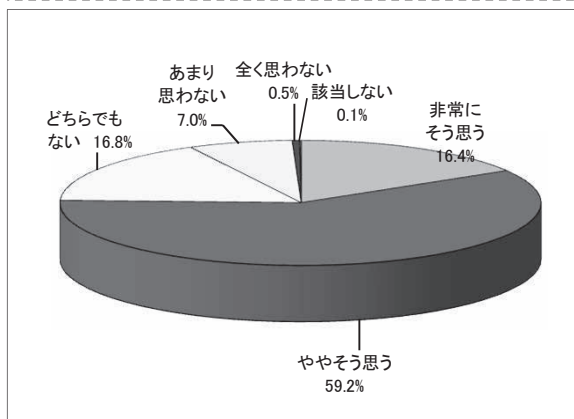


CO2削減状況(東京都環境確保条例対応)



病院教職員アンケート調査結果より

職場に関する設問 3  
あなたは病院(大学)の理念・使命・目標などを理解していますか？



H24年8月27日～9月25日実施

## I. 中期目標・中期計画期間

平成25年4月1日から平成31年3月31日までとする。

## II. 「中期目標・中期計画・平成25年度事業計画」の項目

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
<p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</p> <p>1. 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育に関する目標(医学科・看護学科)</p> <p>○卒前教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来を見据えて教育理念・教育目標を再構築し、教育の質の向上を図る。</li> <li>・問題解決能力を涵養する。</li> <li>・高い臨床能力を涵養する。</li> <li>・自ら学ぶ態度を涵養する。</li> <li>・大学間連携を推進する。</li> <li>・厳正で適切な評価システムを構築する。</li> <li>・国際基準に適合した医師・看護師教育を実施する。</li> <li>・医師・看護師・保健師国家試験合格率の向上を図る。</li> <li>・優れた人材の獲得に向けて医学科・看護学科の入学試験方法を改善する。</li> <li>・医療人に相応しい人格と社会性を涵養する。</li> <li>・多様な進路に対応したカリキュラムを提供する。(研究医・国際貢献など)。</li> <li>・知性と社会性を身につけた医師・看護師を育成するための方策を策定する。</li> </ul>	<p>教育理念・教育目標を再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容公開数</li> <li>・連携大学数、交流回数</li> <li>・留学生の受入数</li> <li>・実習時間数</li> <li>・看護学科受験生500名以上</li> </ul> <p>医師・看護師・保健師国家試験合格率</p>	<p>①初年次教育を改善する。</p> <p>②将来を見据えた大学の理念に沿って教育理念・教育目標を再構築する。</p> <p>③知識偏重から知識の展開力を重視した教育に切り替える。</p> <p>④診療参加型臨床実習を中心に臨床実習を拡充する。附属病院の教育機能を充実させる。</p> <p>⑤自己学習を促進する教育手法を導入する。</p> <p>教育内容の公開を促進する。</p> <p>⑥学生の主体性および個性を尊重した教育を実施する。</p> <p>⑦卒前教育における大学間連携を推進する。</p>	<p>学事課</p> <p>学事課</p> <p>学事課</p> <p>学事課</p> <p>学事課</p> <p>学事課</p>	<p>(医学科)</p> <p>3年間のFD(初年次)活動の成果をふまえ、6年一貫教育の中における初年次教育の充実を図る。また、アドバイザー教員による、入学生個々の生活指導の機会を強化する。</p> <p>(看護学科)</p> <p>スタートアップ宿泊研修および看護総合演習Ⅰの内容について点検評価を行う。</p> <p>1. 国際基準に対応した医学教育認証取得に向けた準備を行う。</p> <p>2. 卒業時アウトカムを策定する。</p> <p>(医学科)</p> <p>知識の展開力を測定する評価方法を工夫する。</p> <p>(看護学科)</p> <p>21年度・24年度改正カリキュラムの実施と評価を行う。</p> <p>臨床実習GP実施計画に基づき、平成27年度から新カリキュラムに移行できるよう準備をすすめる。</p> <p>(医学科)</p> <p>既出問題DBを活用した自己主導型学習システムを構築し、学生の能力特性に応じた教育を実施する。</p> <p>(教育センター)</p> <p>過去問DBを活用した自己主導型学習システムを構築し、学生の能力特性に応じた教育を実施する。</p> <p>(看護学科)</p> <p>学生のe-portfolioを軌道に乗せ、システムを有効に活用する体制を整える。</p> <p>(教育センター)</p> <p>1. 市民参加型教育を推進し、2回の授業で実践し、学生一人ひとりの他者理解力の向上を図る。</p> <p>2. 授業へのIT導入とTBLの普及を図る。クリッカーを活用し3回の授業で実践する。</p> <p>4 大学間での学生教育交流会やSD研修、首都大学東京からの特別科目等履修生の受入れを行い、継続的に大学間連携を行う。</p>



中期目標	指標	中期計画	主体部署	平成25年度事業計画
		⑧学習記録と連携させた評価システムを構築する。 コンピュータ試験を積極的に導入する。	学事課	(教育センター) 1. e-learningシステムによる学習履歴を構築する。 2. コンピュータ試験を医学科4回、看護学科2回実施する。 (医学科) 1. e-learningシステムによる学習履歴を構築する。 2. コンピュータ試験を医学科4回、看護学科2回実施する。 (看護学科) 科目横断試験を軌道に乗せ、有効に活用する体制を整える。
		⑨医学教育と連携した外国語教育の改善を図る。 医学生・看護学生の外国留学を支援すると共に、外国の留学生を積極的に受け入れる。	学事課	(医学科) 外国語教育とGlobal Health教育、海外留学の連携を図り、国際的に活躍できる医師を養成する。 (看護学科) 夏季休暇もしくは春季休暇を利用した短期留学を検討する。
		⑩学生の国家試験準備への支援体制を整備する。	学事課	(教育センター) 医師国家試験問題をDB化し、学生の自己学習環境を整備する。 (医学科) 1. プールした医師国家試験問題や学内試験問題をDB化し、学生の自己学習環境を整備する。 2. グループ学習を支援する。 (看護学科) 模擬試験を計画的に行い、成績が思わしくない科目と学生を中心に補習を実施する。
		⑪入学試験方法を継続的に改善する。	学事課	(医学科) 地域枠の選抜方法を検討する。 (看護学科) 1. 受験生および入学生にアンケートを実施し、その結果を踏まえた対策を検討する。 2. 二次試験(面接)の方法を検討する。
		⑫教養教育の高学年への拡充を図る。 医師のプロフェッショナルリズムを意識した人格教育・社会教育を充実させる。	学事課	(医学科) 高学年における医学科生と看護学科生との共修授業を導入する。 (看護学科) 臨地実習が終了した学年の倫理教育を充実させる。
		⑬選択制カリキュラムの充実を図る。 臨床実習の拡充に併せ研究医養成コース・グローバルヘルスコースなどの選択の幅を広げる。	学事課	(医学科) MD-PhDコースの導入に向けて検討する。 (看護学科) 4年後期の実習に関連する選択科目の内容を充実させる。
		⑭広報活動に努め、看護学科の受験倍率の確保を図る。	学事課	(看護学科) 1. オープンキャンパスを年3回開催する。 2. 高校訪問や大学説明会、模擬授業を積極的に行う。 (広報課) 看護学科と連携しホームページにオープンキャンパス、入試日程等受験生が必要とする基本情報を随時掲載する。



中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25年度事業計画
		⑮総合診療医育成のため教育体制を構築する。	学事課	(医学科) 総合診療医育成のためのカリキュラムを検討する。
○大学院教育 ・臨床を支える研究を推進する。 ・高い倫理観と判断力、基礎研究、臨床研究に優れた研究者を育成する。 ・研究者育成のための実効ある方策を立てる。 ・社会に開かれた大学院として、生涯学習の場を提供する。 ・大学院教育のカリキュラム評価システムを構築する。 ・看護実践を支える看護研究を推進する。 ・大学院間連携を図り、幅広い研究を可能とする。	臨床を支える研究の推進 高い倫理観と判断力、基礎研究、臨床研究に優れた研究者育成 ・改訂プログラム数 ・論文発表数 ・大学院生数 ・学位授与数 ・学位論文のインパクトファクター	①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。 ・トランスレーショナル研究を推進する環境を整備する。 ②研究者として必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムの充実を図る。 ③共通カリキュラムの改善を図る。教職員を対象とした公開講義を積極的に行う。 ④社会人入学の推進を図る。 ⑤看護学専攻修士課程における「教育・研究」を改善し質を高める。 ⑥大学院生からの大学院カリキュラム(共通カリキュラム・選択カリキュラム)評価を定期的実施する。 ⑦大学院生の論文作成状況を適切にモニターする。	学事課 学事課 学事課 学事課 学事課 学事課 学事課	1. がん治療医療人コースを開始する。 2. e-learning環境を充実させる。 1. 他大学と連携した質の高いプログラムの導入を検討する。 2. 研究支援関連委員会との連携を図る。 大学院生のニーズを調査し、共通プログラムに反映させる。 社会人大学院生が研究しやすい環境を整備する。 1. イントラネットのコンテンツを充実させる。 2. 社会人向けの選択コースを拡大する。 大学院生の学会参加、発表を支援する。 大学院生が行うカリキュラム評価を継続して行い、大学院委員会にフィードバックする。 毎年度、大学院生の研究活動状況調査を行う。
○卒後教育 ・卒後教育機関としての質の向上を目指す。 ・卒後教育カリキュラムを改善し公開する。 ・同窓および地域医療者に生涯学習の場を提供する。	毎年の改善と公開 ・レジデント応募者数、採用数 ・医師臨床研修マッチングによる定員充足率	①初期臨床研修プログラムならびに指導体制の更なる充実を図り、学内外の医学生に公開する。 ②専門習得コース(レジデント)における各科プログラムの更なる充実を図り、学内外の研修医等に公開する。 ③看護における臨床技能を高めるための研修を実施する。	臨床研修センター 臨床研修センター 教育センター	(臨床研修センター) 指導医講習会ワークショップを通じて指導体制の充実を図り、指導医講習会記録の発刊を行う。 (教育センター) 患者安全シミュレーション教育等を年6回行う。 (臨床研修センター) レジデント委員会を通じ各科プログラムを見直し。 (教育センター) 心停止予防および臨床指導者養成シミュレーション教育等を年8回行う。 1. ICLS指導者講習会等を年10回行う。 2. 看護臨床技能の生涯学習e-learningについて8部署で検討する。 3. 附属4病院の看護実践力向上のための段階的研修を3回開催する。
(2) 教育の実施体制等に関する目標 ・教育環境を整備する。 ・教育力の向上に努める。 ・教員評価を推進する。 ・教育評価を実施する。	整備する教育環境数 ・e-learningプログラム数 ・シミュレーション教育施設利用率FDの内容 ・クリニカル・クラークシップ指導医養成FDの実施 教員評価制度の運用	①効果的な教育ができるように、講義室やICT環境を含む教育設備を整備する。	学事課 教育センター	(学事課) 1. シミュレーション教育の環境を整備し、有効に活用する。 2. WiFi等の通信環境を整備する。 (教育センター) 1. PC、スマートフォンを使用したe-learning環境を整備する。 2. シミュレーション教育環境について3機関の整備を推進する。

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25年度事業計画
		<p>②カリキュラムに見合った、教員の適正配置と教員数を検討する。</p> <p>③教育能力向上のための教育研修を実施する。</p> <p>④診療参加型臨床実習の拡充のため、臨床実習指導医のFDを充実させる。</p> <p>⑤教育アドバイザーを導入する。</p> <p>⑥臨床実習を行う学外の協力病院におけるFDを導入する。</p> <p>⑦教員評価制度の運用に基づく体系的人事制度を構築する。</p>	<p>教員・医師 人事室</p> <p>学事課 総務課(生涯学 習センター) 教育センター</p> <p>学事課</p> <p>学事課 教育センター</p> <p>学事課 教育センター</p> <p>教員・医師 人事室</p>	<p>教員・医師人事室にて関連部署と協力しながら適切な人数を設定する。</p> <p>(医学科) 医学教育セミナーを企画し実施する。 臨床系教員のうち臨床実習指導医養成FDの受講者数を50%にする。 (看護学科) 1. 医学科、修士課程との合同のFDを組入れる。 2. 看護部と合同で臨床スタッフの実習指導者研修会を開催する。 (総務課) 月例セミナーを年8回、夏季セミナーを年1回実施する。 (教育センター) 医学教育セミナーを企画し実施する。</p> <p>(医学科) クリニカル・クラークシップ指導医養成FDを継続実施するとともに、レジデントなど若手教員向けのFD開催を検討する。</p> <p>(学事課・教育センター) 教育アドバイザー導入について、外部機関と2回の会合を行う。</p> <p>(医学科) 学外の病院に臨床実習の協力を依頼する。 (看護学科) 実習を受けている外部施設のスタッフを対象にFDや公開講座を開催する。 (教育センター) 学外の3病院に臨床実習の協力を依頼する。</p> <p>関連部門による業績入力を100%行い、教員本人による個別入力を促進した上で教員・医師の昇格審査に活用する。</p>
<p>(3) 学生への支援に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が充実した生活を送ることが出来るように支援する。</li> <li>・学生生活に支障をきたす問題を抱えている学生を支援する。</li> </ul>	<p>奨学金制度の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のニーズに応じた奨学金の支給メンタルヘルス教育の充実</li> <li>・医学教育セミナーの開催数</li> </ul>	<p>①学生支援のための教員組織を再構築する。</p> <p>②学力および経済的に問題のある学生に対応する体制を改善する。</p> <p>③奨学金制度を充実させる。</p>	<p>学事課</p> <p>学事課</p> <p>学事課</p>	<p>(医学科) 学生生活アドバイザー制度を拡充する。 (看護学科) 1. 学生生活アドバイザーへのアンケート調査を実施する。 2. 学生委員会とアドバイザーの情報交換会を年2回開催する。</p> <p>(医学科) 問題のある学生を早期に指導・相談できる体制を構築する。 (看護学科) 学年担当の教学委員と学生委員の合同会議を定期的に開催する。</p> <p>(医学科) 新設される慈恵医師会奨学金(海外選択実習奨学金)を円滑運用させる。</p>

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25年度 事業計画
		④精神的支援を必要とする学生のための支援システムを構築する。  ⑤メンタルヘルスの教育を拡充する。	学事課  学事課	(医学科) 学生相談室と精神神経科教員、学年担当教学委員との連絡体制を構築する。 (看護学科) 学生保健担当委員による健康相談窓口(2回/月)を継続して開催する。 (医学科) メンタルヘルスに関する医学教育セミナーを開催する。 (看護学科) 近隣大学とメンタルヘルスに関する合同シンポジウム等の開催を検討する。
(4) 看護専門学校に関する目標 ・看護専門学校の教育の向上を図る。 ・優秀な学生を確保する。	教育の向上・臨床実習の充実 国家試験合格率附属病院への就職者率	①看護実践を重視した看護教育を行う。 ②附属4病院を活用した臨地実習カリキュラムを検討する。 ③学生生活支援を積極的に行う。 ④学生確保のために積極的な広報活動を行う。 ⑤看護教員の確保に努める。	看護専門学校 看護専門学校 看護専門学校 看護専門学校 看護専門学校 看護専門学校	1. 卒業時看護実践能力の調査の実施 2. 実施自己点検自己評価の推進 臨地実習場所の確保 (看護専門学校) 1. 柏看護へのスクールカウンセラーの導入 2. 休学者数の減少科目未履修者は定員の2割以内 3. ホームページの充実・説明会・オープンキャンパスの推進 4. 学内より定期的に看護教員養成課程への派遣 (広報課) 看護専門学校と連携しホームページの充実を図る。
2. 研究に関する目標  (1) 研究水準および研究成果に関する目標 ・国際的な視野に立った先進的研究を推進する。 ・質の高い基礎医学および臨床医学研究を振興する。 ・外部競争的資金の獲得を支援する。	研究水準の向上 ・文部科学省科学研究費補助金採択件数研究成果の向上 ・論文発表数	①研究業績を把握し評価する。  ②教員の職位に応じた論文発表数の基準を設定し、評価する。	学事課  学事課 教員・医師 人事室	研究科教授の研究業績を再評価するため研究科教授(但し平成20年に任用された教授)から過去5年間分の業績を評価する。 (学術情報センター) 1. 教員評価データベース管理委員会に参加し、業績(論文発表)の入力機能に関する問い合わせへの対応を担当し、問い合わせ内容を考慮して、システム機能の改善案をまとめる。 2. ReaD & Researchmap (R&R)の学内連絡部署を担当し、各種連絡についてR&Rと学内該当者との仲介をする。また、教員評価データベースからR&Rへのデータ転送手順とR&Rから教員評価データベースへのデータ転送手順を調査し、R&Rと教員評価データベースの連携方法の案をまとめる。 (看護学科) 研究報告会を充実させる。 (教員・医師人事室) 昇格審査時における各職の論文発表数の基準を設定する。

中期目標	指標	中期計画	主体部署	平成25年度事業計画
		<p>③国際誌への投稿を推進し、支援する。論文執筆のためのFDを継続して行う。</p> <p>④Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌の改善・充実を図る。成医会の改善・充実を図る。</p> <p>⑤若手研究者による競争的研究資金の獲得を支援する。</p>	<p>学術情報センター</p> <p>学術情報センター 総務課</p> <p>研究支援課</p>	<p>1. 講習会出席の機会を増やすために、大学院共通カリキュラムの時間以外にも講習会の開催を企画する。</p> <p>2. 論文執筆に関する図書の一覧を作成する。</p> <p>3. 論文執筆時に必要となるデータベース・文献管理システムの利用説明会を開催する。</p> <p>4. プレゼンテーション資料作成の支援として、学内を対象として、各種プリントアウト、画像や動画の編集・プレゼンテーション資料への挿入の業務を実施する。</p> <p>5. 国際誌の標準形式に準じた論文執筆の促進のため、医学論文書きかた講習会（大学院共通カリキュラム）を年間4回以上継続して開催する。</p> <p>(学術情報センター)</p> <p>1. 合同編集委員会での審議のための資料として、両誌の掲載記事の動向の分析、他大学発行雑誌との比較をまとめ、報告する。</p> <p>2. Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌の合同編集委員会を年4回以上継続して開催し、両誌の改善・充実に向けた審議をする。</p> <p>3. 両誌の内容をインターネットで参照できるように、掲載記事を本学の機関リポジトリに登録する。</p> <p>(総務課)</p> <p>成医会幹事・運営委員会にて、参加者の興味を起こさせるような講演テーマの検討を行う。</p> <p>科研費申請のための書き方講習会を開催する。</p>
<p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究環境を整備する。</li> <li>先進的研究実施体制を構築する。</li> <li>寄付講座制度を活用する。</li> <li>医師の研究時間を確保するために効率的な人員配置をする。</li> <li>効率的に人員を配置する。</li> <li>学内横断的研究プロジェクトを推進する。</li> </ul>	<p>研究実施体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎年度4件の大型プロジェクト研究事業の採択数</li> <li>寄付講座設置数</li> <li>研究機器の運用効率を高める</li> </ul>	<p>①臨床研究支援体制を構築する。研究機器の運用効率を高める。</p> <p>②薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室は臨床試験支援センターと連携し、臨床研究を推進する。</p> <p>③先端研究を推進する体制を作る。学内共同研究を推進し、支援する。</p> <p>④トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。</p> <p>⑤寄付講座を振興する。</p>	<p>研究支援課</p> <p>研究支援課</p> <p>研究支援課</p> <p>大学事務部 研究支援課</p>	<p>1. 総合医科学研究センターの研究機器を共同利用して臨床研究を支援する。</p> <p>2. 文科省「私大戦略的研究基盤形成支援事業」等の大型研究費を活用して臨床研究を推進する。</p> <p>3. 臨床研究推進体制を再構築する。先端研究を推進するための学内共同研究の成立を支援する。</p> <p>臨床応用を目指した基礎研究を推進する。</p> <p>寄付講座を維持し研究を推進する。</p>

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
(3) 総合医科学研究センターに関する目標 ・各研究所・研究室の活動を定期的に点検・評価し、特色ある研究を推進する。 ・競争的研究資金の獲得を目指す。 ・研究支援部門の充実を図る。	特色ある研究の推進 ・総合医科学研究センター研究成果報告会開催数 ・学内共同研究数	①自己点検・評価を推進し外部評価を行い、組織を再構築する。 ②学内共同研究を企画・推進する。 ③各部署の特色ある研究を推進し、研究成果を積極的に開示する。	研究支援課 研究支援課 研究支援課	総合医科学研究センター組織を評価し再構築する。 総合医科学研究センターを中心とした共同研究を推進する。 定期的に研究成果の発表を行い各講座との共同研究を推進する。
(4) その他 ・医学・看護に関する情報を公開し社会に貢献する。	情報公開による社会貢献 ・一般市民および地域医療者を対象とした公開講座を毎年20回開催	①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。	教育センター	大学および4附属病院において、年20回の公開講座を開催する。
<b>3. 附属4病院に関する目標</b> (1) 附属4病院間の連携強化	4病院の特色分化を図る 数値目標等は各病院で設定	附属4病院間の機能の有機的活用を図る。 (葛飾) ①葛飾医療センターにない診療科の診療及び治療の連携を強化する。 ②看護師の人事フローを流動化する。	管理課 (4病院) 企画部	(本院) 病病連携については、本院に配備された救急車を有効活用することにより推進する。 (葛飾) 1. 救急車両を有効利用し患者の搬送を円滑にする。 2. 看護師の4病院ローテーションを定期的実施する。 (第三) 診療科ごとに第三病院の地域性と特色を考慮した機能分化案を策定する。 (柏) 災害時参集情報を基に、参集可能機関での研修を定期的実施する。 (企画部) マスタープランの検討委員会で4病院の機能分化を検討する。
(2) 医療安全・感染対策の推進	医療安全・感染対策の推進 数値目標等は各病院で設定 ・インシデント・アクシデント報告（総件数、種別報告件数） ・チーム医療構築WG参加者数	①附属4病院間の連携強化と医療安全・感染対策管理体制の整備を図る。 ②教職員の教育・研修を充実させ医療安全・感染対策に対する意識の向上を図る。  ③全国の私立医科大学病院の医療安全・感染対策推進活動に貢献する。 ④システム工学の視点に立った医療安全システムの構築を図る。	医療安全管理部 医療安全管理部 医療安全管理部 医療安全管理部	附属4病院セーフティマネジメント委員会および4機関医療安全感染対策合同相互ラウンドによる連携強化を図る。 1. 附属4病院でチームステップスの推進を図るため、講義を含めた積極的な活動を行う。 感染対策ベーシックコースの積極的活動の推進。 2. e-learningによる研修方法を検討する。 私大関係の事務局として相互ラウンド及びサイトビジット、各作業部会などの事業を推進する。 東京大学・早稲田大学との共同研究を推進する。



中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
(3) 先進医療の推進	先進医療の推進数 値目標等は各病院で設定 ・先進医療の承認件数 ・先進医療の実施件数 (本院) 承認数 2 件以上 (葛飾) 新規導入 (第三) 年間 1 件以上 (柏) 年間 1 件以上	①患者ニーズに応える先進医療に取り組む。	管理課 (4 病院)	(本院) 患者ニーズに対応した先進医療を提供するため、診療部会議にて先進医療の周知を行い、新規先進医療の推進を図る。 (葛飾) 診療部に対する先進医療に関する啓蒙を行い新規の先進医療実施の可能性を確認する。 (第三) 各診療科からの要望に応えられるよう情報収集を行い、医療の質・技術向上に取り組み患者ニーズに対応した先進医療を提供する。 (柏) 先進医療検討委員会において、定期的に先進医療承認医療技術を報告し、申請可能な技術を申請する。また、ホームページに実績を掲載し、患者への情報提供を行う。
(4) 患者サービス・医療連携の推進	ボランティアサービスの充実 数値目標等は各病院で設定 地域医療連携強化 数値目標等は各病院で設定 ・紹介率 ・逆紹介率	①患者中心の医療を円滑に推進する。  ②住民参加によるボランティアサービスの充実を図る。  ③ ICT を用いて地域医療連携を強化する。	患者支援・医療連携センター  ボランティア事務局 管理課(葛飾第三・柏)  患者支援・医療連携センター	(患者支援・医療連携センター) 医療機関等への戸別訪問により患者の紹介、逆紹介を推進する。 (療養型病院、回復期リハビリ病院、訪問看護ステーションならびに本学・学術連絡委員、支部長訪問など) (柏) 1. 患者の入退院に対する不安を軽減して、安心して治療に臨め、切れ目のない医療を提供するための PFM システム(入退院のコーディネート・事前リスクの回避・社会資源の活用)の機能を強化する。 2. 手術説明・術前指導・入院前オリエンテーション、退院調整支援を行う。  (ボランティア事務局) 活動者の多い土曜日の業務内容を拡大する。 (葛飾) 行政と連携し、広報や活動内容・場所を検討し、受入れ体制を強化する。 (第三) 1. 広報活動や活動場所を検討し、受入れ体制を強化する。 2. 退職者を中心にボランティアの体制組織を構築する。 3. 案内係ボランティア一日 2 名確保。 (柏) 外来におけるボランティアサービスを週 6 日とする。 (患者支援・医療連携センター) 同窓開業マップの作成と活用 (柏) 1. 地域医療機関と円滑な患者情報を提供・共有化し、4 疾病・5 大がんの全県共用地域連携パスを普及する。 2. 連携機関・施設への訪問・調整、医療連携フォーラムの開催、広報活動の充実を図り、顔の見える関係を構築する。

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
(5) 効率的な医療の推進	DPC 効率性指数の向上数値 目標等は各病院で設定 ・平均在院日数の短縮クリニ カルパスの効率的運用数値 目標等は各病院で設定 ・クリニカルパス適応疾患数 ・包括制度効果額（原価率資 料）	①附属 4 病院で効率的な DPC 運用を図る。	業務課 (4 病院)	(本院) 現行の診療内容（薬剤、特材、消耗品） を経済的な視点から検証し、医療の質 を維持しつつコストを下げる改善案を クリパスを通じて改定する。材料費、 薬品費の支出合計を1%削減（平成24 年度実績ベース） (葛飾) クリパスの活用を通して標準化を推進 し医療の質と安全性、効率化と収益性 を確保する。 (第三) クリパスWG等によるDPCに対応し たクリニカルパスの導入により、標準化、 安全と効率化を図る。クリニカルパス の導入、標準化、効率化により、平均 在院日数を12日以内に短縮する。 (柏) 1. 診療報酬改正による影響を踏まえ、 減収症例の改善策をクリニカルパ スに反映させる。 2. クリニカルパスの適応疾患を拡大 し、ブラッシュアップにより精度 を高める。
		②職種間の効率的な協働体制 を構築する。	病院事務部 (4 病院)	(本院) 多職種による連携を図りチーム力を強 化する。 (第三) PFM の運用により効率的な情報共有 の推進を図る。 (葛飾) チーム医療を推進する。 (柏) 1. 医師の事務作業を軽減するため、 医師事務作業補助者を養成・配置 し、診断書の作成をサポートする。 2. 医師・看護師の本来業務以外に混 在している業務を整理し、コメディ カル・事務員等が遂行可能な業務 を移行し、本来業務に専念出来る 環境を作り、医療資源の効率化を 図る。
		③科学的根拠に基づく医療の 効率化を推進する。	業務課 (4 病院)	(本院) クリニカル・インディケータ、他大学 とのベンチマークなどを通じて、当院 独自のEBMを実戦する。 (葛飾) 各診療科別、疾患（DPC分類）別の原 価計算を行い医療資源の投入を行う。 (第三) クリパスWG等によるDPCに対応し たクリニカルパスの導入により、標準化、 安全と効率化を図り、平均在院日数を 短縮する（平成25年度目標:平均在院 日数13日以内）。 (柏) 疾病別原価分析を行い、科学的根拠に 基づく医療の効率化を評価する。



中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
		④患者にとって効率的な医療 を実践する。	病院事務部 (4病院) 薬剤部	(本院) 医療の機能分化を図る上で、紹介率お よび逆紹介率を向上させる。 (葛飾) 1. クリニカルパスを推進する。 2. 地域医療連携を強化する。 (第三) PFMの推進により効率化を進める。 (柏) 1. 後発薬品への切り替えを推し進める。 2. 患者の医療情報をIT化し、官公 庁を含む関係機関との共有による 患者本位の医療の提供を実践する。 電子カルテおよびi-stroke等統 一化されたシステム構築の準備を 行う。 (薬剤部) 医療安全面に考慮しながら、後発薬品 への切替を適切に進める。
(6) 予防医学の推進	予防医学の推進 ・特定保健指導実施率 10%UP ・論文発表数：10 稿 ・学会発表数：15 題 ・提携団体数：2	①大学として予防医学に貢献 する。 ②スポーツウェルネスクリニック とスポーツ医学研究の推進。	総合健診・ 予防医学 センター 整形外科	健診後の特定保健指導の充実 1. 競技団体との共同での骨代謝動態 について測定を推進し、結果を発 表する。 2. 体力医学研究の学会発表や論文発 表を行う。
(7) 財務の改善・充実を図る。	毎期設定される収益目標を 達成する。	毎期設定される収益目標を達 成する。	病院事務 部 (4病院)	
(8) 教職員の職場満足度向上	教職員の満足度向上 ・職場満足度調査における満 足度10%UP ・職員全体退職率5%減少	①働きやすい環境整備等を行う。	人事課  教員・医師 人事室  管理課 (葛 飾・第三・柏)	(人事課) 1. 職場満足度調査の実施 2. 保育支援制度 (ワークライフバラ ンス制度) の検討 (教員・医師人事室) 各科医局長等を通じて医師の職場環境 に関する現状や問題点を把握し、1項 目以上改善する。 (葛飾) アメニティー委員会、総合医局会、労 使協議会等を通じて職場環境の現状把 握を行い問題点を改善する。 (第三) 職場環境改善に向けた新医局棟の基本 計画を策定し建築に着手する。 (柏) 1. 院外寮の見直しを検討する。 2. 柏病院の将来計画として、管理棟 増築、外来及び病棟の改修を行い、 働きやすい環境を整備する。

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25年度 事業計画
		②育児・介護・病気療養に配慮した柔軟な勤務体制を整備する。	人事課 教員・医師 人事室 管理課 (4 病院)	(人事課) 1. 職場満足度調査の実施 2. 保育支援制度（ワークライフバランス制度）の検討 (教員・医師人事室) 1. 女性医師キャリア支援室との協力により女性医師の勤務環境の整備や復職支援策について1項目以上改善する。 2. 関連部署と調整し勤務環境を整える。 (本院) 再就職登録の運用、再就職登録者への求人情報の提供実施を行う。 (葛飾) 再就職登録の運用、再就職登録者への求人情報の提供実施を行う。 (第三) 人事課、教員・医師人事室からの意見を掲載。 (柏) 届出勤務時間の見直しを図る。
●本院に関する目標  (1) 医療の質の向上を図る。	特定機能病院としての施設基準を維持し、さらに機能を充実させる。 (施設要件関連) ・先進医療2件以上、又は、先進医療1件かつ特定疾患治療研究事業に係る年間500人以上の患者を診療する。 ・紹介患者50%以上（概ね5年間に10%以上の紹介率を高める） (機能充実関連) ・逆紹介率30%以上を目標とする。 ・DPC病院1群としての各機能評価を充実させる。 (効率性、複雑性、カバー率、救急医療、地域医療) がん診療連携拠点病院 ・5大がん+前立腺がんのパス運用数年間40件、公開講座開催件数年間2回以上 人材育成 ・研修医のCPC出席100% ・認定看護師等の育成計画に沿って主たる分野で各2名以上救命救急 ・新外来棟での救命救急センター開設	①特定機能病院としての機能を充実させる。  ②がん診療連携拠点病院としての機能を充実させる。  ③人材育成（スキルアップ）を行う。  ④院内研修制度の充実を図る。  ⑤専門職の充実  ⑥チーム医療の強化・推進  ⑦救命救急体制の強化を図る。	管理課  管理課  教員・医師 人事室 教員・医師 人事室 看護部 病院事務部 救急部	特定機能病院としての機能を充実させるための院内体制整備と特定機能病院としての基準要件（先進医療等）の申請支援の実施。 1. 地域がん診療連携拠点病院としての更なる機能充実を図る。（院内がん登録の促進、がん相談支援体制の確立、ホームページ等を用いた院内外への広報活動、緩和ケア体制拡充） 2. がん関連会議への積極的参加により他のがん拠点病院とのカンファレンスや研修会等による情報共有を行う。 カンファレンス・CPCによる症例検討への出席を推進し、CPCに関しては研修医の出席率を100%とする。 医師の採用時オリエンテーションの充実を医療安全推進室と共に推進し、受講率を100%とする。 1. 認定看護師の育成と活用を推進する。 2. 平成26年度資格取得を目指して、教育機関連講者を増やす。①新規5分野養成②現有2分野追加養成 チームステップ受講によるヒューマンエラー対策の強化 本院新外来棟開院時の救命救急展開に向けての準備
(2) 先進（高度）医療を開発し、施行する。	新規認定数		管理課	先進（高度）医療の開発を支援（人的・物的）する仕組みを提案する。

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
(3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。	アクシデント事例の減少院内感染の防止ラウンド数カンファレンス数	①医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	医療安全管理部 感染対策室	1. 術前合同カンファレンスの活性化と円滑な運用を図る。 2. チームステップスを主体とした医療安全文化の醸成を図るとともにトレーナー育成を進める。 3. 集中治療部門以外の一般病棟における標準的感染対策のボトムアップを図る。 4. セーフティマネージャー中心の病棟単位の積極的な感染対策の実践。
(4) 患者・家族の満足度の向上を図る。	苦情・クレーム件数 10% 削減（平成 24 年度実績ベース）説明と同意書の整備件数	①インフォームド・コンセントを徹底する。	管理課 医療安全管理部 看護部	患者からの苦情や意見を統計化し、インフォームド・コンセントに関する事項については該当科へフィードバックし、説明と同意書の整備や医師教育の徹底も図る。
(5) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。	保険法紹介率 50% 以上逆紹介率 30% 以上	①患者支援・医療連携センターの機能を十分に発揮する。	患者支援・医療連携センター	1. 3部門における相互支援体制の強化と業務効率の推進。 2. 当センターで発刊している「診療のご案内」や「外来担当医表」の全面改訂をはじめ広報誌によりセンター内の動きなどをアピールする。
(6) 臨床研究を促進する。	臨床研究数	①薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。	臨床試験支援センター	申請手続きを簡略化するために IT 化、検討・申請書の負担減と申請もれを防止する。
(7) 効率的医療を推進する。	中央棟手術室利用率（日勤帯）60% 以上維持外来棟手術室利用率 60% 以上目標新外来棟での救命救急センター開設	①効率的な診療体制の構築を図る。 ②手術室の安全で効率的な運用を図る。  ③救急患者受入れの体制整備と推進を行う。	病院事務部 手術部  救急部	多職種による連携を図りチーム力を強化する。 <b>【運用面】</b> 1. 手術室利用率の向上。特に外来棟手術室は50%以上の利用率とし、中央棟手術室の負担軽減と更なる有効利用を図る。 2. 手術室枠の定期的な見直しを実施する。 <b>【安全対策】</b> 1. 感染防止対策を強化する。特に SSI（術野感染）発生数の減少を図る。 2. 再手術数の状況調査と検証を行う。 3. 手術室規約違反手術の削減。 <b>【管理面】</b> 1. 人員の適正配置、手術時間の適正化、医療材料の適正利用により、手術室利用の平準化を図る。そのための対策として、看護師本来業務の状況調査、医療材料等管理システムの導入検討を行う。 2. 術式に対する使用機器の調査を行う。その後、術式に対する使用機器のデータ化やオーダーの紐付けを実施し、機器の計画的な更新や新規購入の必要性を評価することで、無駄を省き、効率的な運用を図る。  救急患者来院後に速やかに患者の状態を評価し、緊急度に応じた優先順位づけを行うトリアージ体制の充実を図る。

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
(8) ICTを充実し、有効活用する。	電子カルテの導入	①電子カルテを導入する。	システム課	新外来棟の建築に向けた電子カルテの導入準備
(9) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。	年度予算の収益目標額以上の達成 特殊材料費・消耗品費 1%削減（平成 24 年度実績ベース） 原価率 ベンチマークによる改善の提言 BSC の推進 私立医科大学病院での後発品平均採用率	①月次医療収支額を把握し活用する。 ②他大学との DPC データのベンチマークを実施し、活用する。 ③医療材料の SPD 業務の再編の評価を行う。	病院事務部 企画部 病院事務部 施設課 企画部	病院運営会議において毎月収益状況報告を行い、必要に応じて各科へのフィードバックを行う。 DPCベンチマークを実践し、経営上の改善点を提案する。 (病院事務部・施設課・企画部) SPD業務の再編後の評価を行うため、物流全般にわたる現行の制度を効率面且つ経済的視点から検証し、経費抑制を図る。
(10) 情報公開の条件を整備する。	情報公開項目数（手術、合併症率、再入院率、再手術率等） 4 項目以上達成	①診療情報を評価するシステムを構築する。	管理課	病院年報作成委員会にて選定された指標を公開する。その他ホームページへの公開。
(11) 教職員の職場満足度を向上させる。	職場満足度調査における満足度 10%UP 教職員全体退職率 5% 減少	①働きやすい環境整備等を行う。  ②育児・介護・病気療養等（女性医療従事者の就労支援体制の強化を含む）に配慮した柔軟な勤務体制を整備する。	人事課 給与厚生課 教員・医師 人事室  人事課 教員・医師 人事室 管理課	(人事課) 1. 職場満足度調査の実施 2. 保育支援制度（ワークライフバランス制度）の検討 (教員・医師人事室) 各科医局長等を通じて医師の職場環境に関する現状や問題点を把握し、1項目以上改善する。 (人事課) 1. 職場満足度調査の実施 2. 保育支援制度（ワークライフバランス制度）の検討 (教員・医師人事室) 女性医師キャリア支援室との協力により女性医師の勤務環境の整備や復職支援策について1項目以上改善する。 (管理課) 病児預かり室のPR、対象者の拡大、受入れ人数の検討を継続実施。再就職登録の運用、再就職登録者への求人情報の提供実施を行う。
(12) 晴海トリトンクリニックの現状評価と将来構想	現状評価と将来構想の策定 独自のビジョンとアクションプランの策定	①晴海トリトンクリニックの機能（組織・診療体制・健診体制）を点検・評価する。 ②医療機器の計画的な更新を図る。	晴海トリトン クリニック	中断している晴海トリトンクリニック 検討委員会の再開  内視鏡システムの更新、MR装置の今後を検討
(13) 総合健診・予防医学センターの充実	がん早期発見率のデータ分析方法を確立し 10% 以上上昇させる。メタボリックシンドローム該当者 5% 軽減 女性検診での早期異常状態発見の 10% アップ	①がんを中心とした早期発見のため画像伝送システムをはじめ検査伝送システムの病院との連携強化を図る。 ②特定保健指導を充実させメタボリックシンドローム該当者を減らす。 ③女性検診の充実化を図る。	総合健診・ 予防医学 センター	健診 3 ヶ月後の追跡調査の徹底  頸動脈超音波による動脈硬化診断の開始。  女性検診に乳腺超音波検査の導入を検討する。

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
<b>●葛飾医療センターに関する目標</b>				
(1) コンプライアンスとガバナンスを強化する。	5年以内に病院機能評価認定	①病院機能評価を受審し認定病院となる。	葛飾医療センター	病院機能評価受審 PT の立ち上げ
(2) 健全財政を維持する。	毎期設定される収益目標を達成する。	①医療の効率化、透明化、標準化を推進する。 ②コスト管理を徹底し収支差額を増大させる。 ③データウェアハウスを活用し管理会計を強化する。	葛飾医療センター	DPC 分析とクリニカルパスの実践・推進 1. 医療収入と医療材料費の相関チェック 2. 人件費と委託費の相関チェック 1. 病棟毎の原価計算の試行 2. 疾病毎の原価計算の試行
(3) オープン・システムを拡大する。	患者紹介率：50% 逆紹介率：25% 公開講座平均参加者数 100 名	①附属 4 病院、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワークを拡大する。 ②教育研修制度を整備する。  ③地域の健康管理・健康増進に貢献する。	葛飾医療センター	1. 登録医の拡大 2. NK ネットの連携強化 3. 小児初期救急医療の連携 1. 看護師復職支援事業の継続 2. シミュレーション教育施設の利用促進 公開講座の開催と充実
(4) 診療重点機能を強化する。	年間救急搬送数：4,200 件 年間手術件数：5,000 件 血液透析件数：1 ベッドあたり 2 回転	①プライマリーケア・ユニット（救急部・総合内科・小児科）の機能を強化する。 ②手術室を効率的に運用する。 ③集中治療室（ICU・CCU）を効率的に運用する。 ④当初の計画通り、血液透析ベッドを拡張する。 ⑤がん治療を重点化する。	葛飾医療センター	総合内科の定員充足  土曜日予定手術の実施 SI の利用と内科の入棟基準の検討  血液透析導入患者の漸増  東京都がん診療連携協力病院（部位別）の認可
(5) 大規模災害に備える。	BCP の策定と継続的な検証、更新	①BCP（事業継続計画）を策定する。 ②DMAT（災害派遣医療チーム）を編成する。	葛飾医療センター	1. 教職員安否確認システムの導入 2. サプライチェーンの確認 DMAT の組織化と規程の制定
(6) 第二期建築計画を実現する。	—	①部門毎に活動性を検証し基本計画を立案する。	葛飾医療センター	将来拡張部門の選定
<b>●第三病院に関する目標</b>				
(1) 総合医療サービスにより安心な医療と思いやりのある対応で地域に信頼される病院になる。	救急患者数 1,800/月 救急搬送数 350/月 手術件数年間 6,000 件 一般病床稼働率 90% 以上 紹介率 50% 以上（医療法）	①救急搬送患者の受入れを強化し、断らない救急を実現する。  ②手術室の運用改善により手術件数の増加と緊急手術に対応する。  ③病床の運用を改善し、入院の必要性に応える。 ④医療連携を強化し、紹介患者の増加を図る。在宅医療を推進する。	第三病院	1. 救急室管理における内科系・外科系救急体制を実行し、近隣医療機関との連携を通じて受入救急患者の増加を図る（200人/月増加） 2. 昼間時間帯の救急部での受入救急患者の増加を図る（1日平均30名） 1. 手術枠を基本とした柔軟な手術申込の実施 2. 各科の全身麻酔手術の増加と午前の運用率の向上（午前稼働率50%） 3. 手術件数増加に対する医療スタッフの業務量増加に対して手術関連器械の整備と本来外業務を委託業者へ委託する。 PFM を全患者に適用し、病床運用の効率化を図る。 1. 近隣の前方連携医療機関を訪問し、「顔の見える医療連携」を実施することで紹介件数増加を図る。 2. 紹介元医療機関のニーズを的確に把握し迅速に対応する。



中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
(2) 新病院建築に向け病院機能と財政基盤を確立する。	毎期の資金収支を黒字とする 中期大型投資計画・資金計画 予定表の作成	①収支を改善し、新病院建築 前まで単独での投資資金を 確保する。 ②中期的な大型投資計画、資金 計画を策定し、経営課題を分 析改善する仕組みを作る。	第三病院	安定的な財政体質の確立に向け、収入・ 支出に対するの不断の改善努力を継続 する。 建物・設備、大型医療機器の投資計画、 資金計画の収支バランスを評価できる 計画表を策定する。
(3) 新病院の基本構想、基本 計画を策定する。	新病院建築へ向けた敷地内 建物の許認可状況の整理 建築委員会による地域自治 体の意見を参考とした新病 院要件仕様の検討開始	①第三病院の将来像を見据 え、附属4病院の機能連携 を考えた新病院構想・計画 を策定する。 ②大規模災害に備えた新病院 構想を地域自治体と協力し 策定する。	第三病院	新医局棟建築工事およびエントランス 周辺駐車場整備工事を実施する。  狛江市・調布市等の近隣地域自治体と 連携をとり、要望を聴取した上で新病 院の構想を検討する。
(4) 特色ある医療を強化する。	入院患者数(1日平均)16名 外来患者満足度70%以上「 次回も当院をご利用いただけ ますか」 入院患者満足度90%以上 「あなたは家族や友人に当院 への入院を勧めますか」	①森田療法センターを本学の 特色ある医療として内外に 強く再アピールする。 ②患者満足度の高い病院への 改善を図る。	第三病院	1. 関係医療機関に年2回診療案内を 送付する。 2. 市民向け公開講座を実施する。 3. 精神科および心理臨床関係の各種 学会や雑誌において、森田療法の 治療成果を年4回報告する。 1. 外来会計の待ち時間短縮を図る(5 分短縮)。 2. 電子カルテ導入後の待ち時間短縮 策を検討する(再診患者在院時間 1時間以内)。 3. 病院玄関前の混雑緩和と患者用駐 車場増設のため整備工事を実施する。
(5) ICT技術の活用により医 療の効率化を実現する。	労働生産性向上 一人当たり労働生産性=(医 療収入-医療経費)/教職員数	①電子カルテを導入し、医療 の効率化と医療データの有 効利用を実現する。	第三病院	HIS委員会を中心に、WGを定期開催 し準備を進め、電子カルテを平成26年 1月5日より稼働する。
(6) 大規模災害に備える。	実効性のあるBCP(事業継 続計画)の完備 DMAT(災害派遣チーム) 設置	①BCP(事業継続計画)を策 定する。 ②DMAT(災害派遣医療チ ーム)を編成する。	第三病院	BCPの根幹となる部分を策定する。  第三病院としてのDMATを編成する。

中期目標	指標	中期計画	主体部署	平成25年度事業計画
<p>●柏病院に関する目標</p> <p>(1) 医療の標準化・効率化を推進する。</p>	<p>DPC 効率性指数の向上  外保連手術指数の向上  レジメン登録件数の適正化  1C手術室利用件数の増加  手術件数年間7,000件  手技の特性に応じて専用キット化を推進する（現在は複数キットを使用）  クリニカルパスの導入件数  緩和ケアチーム年間介入数  年間600件以上  院内褥瘡発生率  NST介入件数</p>	<p>①医療の標準化、効率化により、医療の質の向上と安全を確保する。</p> <p>②手術室の安全性の向上と効率化を図る。</p> <p>③医療材料を中心としたSPD方式の手術キット、DRGセットを評価し、効率化と医療経費の削減を図る。</p> <p>④DPCに対応したクリニカルパスの見直しを行う。</p> <p>⑤患者のためのチーム医療を推進する。</p>	柏病院	<p>1. レジメンオーダーの全科(入院・外来)稼働と申請レジメンの適正管理を図る。</p> <p>2. 誤薬防止のための処方箋様式を変更する。</p> <p>3. 電子カルテ導入やITによるネットワーク化、統一化されたシステム構築に向けた将来像を策定する。</p> <p>1C手術室の有効利用を図ると共に安全性を確保するための手術件数を設定する。</p> <p>看護部や業者を含めて実態把握するとともに、使用頻度が低い器材等の洗い出しを定期的(年2回)に行い、内容の見直しを行う。</p> <p>DPC請求と出来高請求の比較分析を実施し、見直しが必要なクリニカルパスについては、各診療部へ情報提供と改善提案を行い、効率的なパス作成を推進する。</p> <p>1. 医療スタッフの専門性の向上、スタッフ間の連携・補完を推進し、患者・家族と共に質の高い医療の提供を実現する。</p> <p>2. ガイドライン・プロトコル等を活用した治療の標準化を浸透させ、疾病の早期発見・回復促進・重症化予防など医療・生活の質の向上を図る。医療の標準化・組織化を通じた医療安全の向上を実現する。</p>
<p>(2) 地域中核病院として十分に機能する。</p>	<p>年間3診療部のBSC作成  病院BSCの毎年のブラッシュアップ  市民公開講座開催件数年間2回以上  救急搬送数・救急患者数対前年度比増  平均在院日数の短縮(目標11～12日)  外来患者数1日平均1,600人以上  入院患者数1日平均570人以上  先進医療の承認および実施件数年間1件以上  紹介率50%以上  逆紹介率30%以上  地域連携診療計画管理料算定患者数(脳卒中地域連携:脳卒中のみ評価)</p>	<p>①病院のビジョンを共有し、急性期医療・地域医療に貢献する。</p> <p>②周産期センター化を検討する。</p> <p>③患者支援・医療連携センターの機能強化と患者相談・支援窓口(PFM)の充実により、病床の効率的な運用と医療の質の向上を図る。</p> <p>④東葛北部医療圏が求める外来および入院機能の拡充、先進医療を推進する。</p> <p>⑤連携病院を拡充し、地域連携を強化する。</p>	柏病院	<p>1. 柏病院BSCのブラッシュアップと全部署BSCを作成する。</p> <p>2. 市民公開講座の開催等、地域住民や行政への医療啓発を更に充実させる。</p> <p>3. 救急搬送、救急患者増加に向けてER診療体制の更なる充実化を図り、積極的に救急患者を受け入れる。救急隊との顔の見える関係を強化し、積極的に患者を受け入れる。</p> <p>周産期センター化に向けた将来構想を検討する。</p> <p>1. PFMシステムの機能を強化し、病床管理を徹底する。</p> <p>2. 同一疾病、同一治療の在院日数の共通化。午前退院、午後入院を推進する。</p> <p>1. 新外来棟を建設する。外来診療棟の改修・病棟改修に向けた準備を進める。</p> <p>1. 前方連携の拡大(連携登録医の見直し、紹介元医療機関の拡大と紹介患者増)</p> <p>2. 後方連携病院の開拓と関係強化</p> <p>3. 在宅医療推進のための地域訪問看護ステーションとの連携強化</p>



中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25年度 事業計画
(3) がん診療連携拠点病院として必要な質の高い診療を実践する。	年間外来がん患者延数 7,700 人以上 年間入院がん患者数 3,500 人以上 地域がん登録件数 がん治療連携計画策定料算定患者数（がん地域連携） 外来化学療法室月平均延患者数 430 人以上 緩和ケアチーム年間介入数年間 600 件以上 地域連携パスのパス種の拡大と稼動 3 パス以上 パス使用件数年間 5 件以上	①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備し、高度がん医療を提供する。 ②化学療法および緩和ケアの提供体制の充実を図る。 ③各医療機関からの紹介患者の受入れを行う。また、地域連携パスを活用し、病病連携・病診連携を推進する。	柏病院	口腔ケアなどがん診療連携拠点病院として必要な医療提供に対応できるような診療体制の整備を図る。 1. 外来化学療法室ベッド回転率の向上。時間帯、曜日の偏在性を解消し、効率的な運用を図る。 2. 緩和ケア体制の整備を図り、がん診療連携拠点病院としての質の向上、入・外緩和ケア診療加算算定に伴う増収へ繋げる。 地域連携パス体制整備、拡大を図り、地域連携パス件数増に努め、医療連携強化を図る。
(4) 救命救急センターとしての診療体制および機能を強化する。	3次救急搬送件数 120 件増 / 年間 救命救急入院料の算定件数増 救急車で来院し、入院となった患者数（救急医療入院のみ）	①重症および複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を 24 時間体制で受け入れる。 ②救命救急センターの円滑な運営のための全診療科のバックアップ体制を構築する。 ③手術室を効率的に運用し、救急患者の受入れを強化する。 ④医学生、臨床研修医、看護系学生および救急救命士等に対する救急医療の臨床教育を行う。	柏病院	1C 病棟改修工事の終了と共に病棟内に 3 床増床となる。 各診療科に対して当直体制及び ER 体制の見直しを図ると共に 1C 手術室の有効利用を図る。 全診療科による救急支援体制を構築する。  1C 手術室の有効利用を図り、緊急手術の受入体制を整備する。 ICLS コースの受入体制を整備する。 また、医療従事者に対する救急医療教育を行う。
(5) 収益の向上を図る。	每期設定される収益目標を達成する。	収益月次報告により、予算に対する執行額および収支バランスを把握し、収益目標額を達成する。 ・医療経費（特殊材料費、消耗品費等）の削減 ・原価率 ・診療単価と手術単価	柏病院	病院運営会議及び診療部会議において、患者数および収益状況の報告を行う。また、各診療部（科）に対して、手術件数、診療単価、DPC 分析、クリパスの見直し等を提案し、収益向上策を実施する。
(6) ICT 推進による医療の効率化・共有化を推進する。	電子カルテの導入	①平成 26 年度中に電子カルテを導入する。	柏病院	システムベンダーを検討する。

中期目標	指標	中期計画	主体部署	平成25年度事業計画
(7) 災害拠点病院としての体制を整備する。	DMAT（災害派遣医療チーム）の指定 災害対策の再整備 BCP（事業継続計画）策定	①自己完結型のDMAT（災害派遣医療チーム）を創設する。  ②災害拠点病院としての受け入れ体制等を整備する。  ③BCP（事業継続計画）を策定する。	柏病院	1. DMAT派遣人員数を決め、講習会等に参加させるとともに、派遣できる体制を整備する。 2. 被災地における自己完結型の医療救護に対応できる携行式の応急用医療資器材、応急用医薬品、テント、発電機等の設備を整える。 1. 被災地からの重症患者の受け入れ、DMAT等の医療チームの受け入れ、傷病者等の受け入れ及び広域搬送への対応、地域医療機関へ応急用資器材の貸し出し等の体制を整備する。 2. 必要備品・器材の確保。 3. 自家発電機の燃料を3日分程度確保。 4. 食料、飲料水、医薬品等の3日程度の備蓄。 5. 簡易ベッド等備蓄倉庫の確保。 6. 広域災害・救急医療情報システム（EMIS）の情報を入力する複数担当者を定め、入力内容や操作方法などの研修・訓練を実施する。 7. 地域の二次救急医療機関や行政機関等との定期的な訓練を計画する。 他3機関（東京都）の計画を参考とし、千葉県における計画に準拠した柏病院版を策定する。
II. 法人運営の改善および効率化に関する目標 1. 運営体制の改善に関する目標 ・内部統制の強化を図る。 ・理事会機能の更なる充実を図る。 ・法令遵守の徹底を図る。 ・法人運営の総合的計画立案機能を強化する。 ・個人情報管理を徹底する。 ・広報活動を充実する。	法令遵守と内部統制の強化 理事の担当役割の明確化 大学プランの策定と公開 不適切な個人情報管理を0%にする 事業計画の課題100%実施 申請過誤の削減（申請過誤0件） 研究費不適切使用の排除（研究費不適切使用0件）	①内部監査の充実を図る。  ②理事会機能を検証する。理事の担当役割を明確にする。  ③慈恵大学行動憲章・行動規範の周知を徹底する。  ④法令遵守の徹底を図る。 ⑤補助金（公的研究費、私立大学等経常費補助金等）に係る管理体制を充実する。	監査室  理事会  人事課 教員・医師 人事室  総務部 経理課 研究支援課	1. 公的補助金（研究費、経常費補助金等）監査および業務監査を充実させ、的確な評価・検証・改善提言を行う。 2. 監事、外部監査人との連携を強化し、内部統制の整備、運用状況を確認する。 自己点検評価委員会にて法人全体の機能を検証する。  (人事課) 周知浸透方法の工夫目的にて他事業体の行動憲章・行動規範情報を収集する。 (教員・医師人事室) 新規採用教員・医師全員（100%）に教員・医師ハンドブックの配布を通じて本学の行動憲章、行動規範の周知を図る。 (広報課) 広報誌及びホームページなど広報ツールを活用し、内外に向けて発信・周知する。ホームページの掲載、The JIKEI、慈恵ニュース（各年2回発行）に掲載し周知を図る。 法令違反0件とする。 補助金（公的研究費、私立大学等経常費補助金等）の管理体制と内部統制の強化を推進する。

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25年度事業計画
		<p>⑥個人情報保護の重要性を認識し、教育・指導を行う。</p> <p>⑦本学の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）を学内外に発信する。</p> <p>⑧事業計画の実施状況を確認する。</p> <p>⑨事業計画を実施するためにBSCを活用し、継続的に評価する。</p>	<p>総務課 管理課 (4病院)</p> <p>広報課 学術情報センター</p> <p>企画部</p> <p>企画部</p>	<p>(総務課) 外部講師による4病院合同の講演会を実施し、注意喚起を行う。また、オールユーザーにて注意喚起メールを配信する。 (管理課) 教職員の関心を集める講演会を企画開催することにより講演会参加者数増を図り、教育啓蒙を推進する。 (葛飾) 個人情報保護に関する研修会を開催し啓蒙を図る。 (第三) 診療録やUSBメモリの取扱い方法等、イントラネットや院内のセミナーを通じて教職員へ啓蒙を図る。 (柏) 定期的に研修会を開催するとともに、セルフチェックを行う。</p> <p>(広報課) 最新情報を掲載できるようホームページの更新を定期的に行う。メディア取材、広報誌・ホームページを行うとともに、主要メディア掲載件数（慈恵トピックス掲示板への掲載を含む）を500件程度にする。 (学術情報センター) 1. 教員評価システムの使用法の説明会を開催し、本学各教員の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）のデータ入力の促進をはかる。 2. 本学各教員の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）のうち、大学基準協会の評価で必要となるデータを教員評価システムから抽出することができるかを、大学自己点検・評価の関連部署と確認する。</p> <p>数値による達成状況の把握により、未達成項目に対する具体的な方策を検討する。</p> <p>各部門にBSCを浸透し事業計画と連動することで、大学の目標達成につなげていく。</p>
<p>2. 人材確保・育成・活用に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成のための教育制度を構築する。</li> <li>・職場環境を整備し、教職員の満足度を向上する。</li> <li>・業務の効率化を図り人件費を最適化する。</li> </ul>	<p>教育制度構築 職場満足度調査における満足度 10%UP 教職員全体退職率 5% 減少 看護要員確保率 100% 看護師年間退職率 11.6% 以内</p>	<p>①職員の人材育成制度を強化する。</p>	<p>人事課 第三病院</p>	<p>(人事課) 1. 新入職員研修～入職3年目研修を再評価する。 2. 管理職育成プログラムを再評価する。 3. 自己啓発制度、管理職研修の対象に新たなプログラムを追加する。 (第三病院) 1. 職員の学会活動等対外的な活動を通じ人材の育成を図る。 2. 横断的な多職種によるチーム医療を推進する。 3. 多職種によるチーム医療関連研修会を年6回開催する。 4. スタッコール対応体制を確立する。</p>

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
		②人材の有効活用のための適性の把握・評価方法を検証する。 ③教職員の満足度を向上させ教職員の定着率を高める。	人事課 人事課 給与厚生課 教員・医師 人事室	人材活用データベースを構築する (人事課) 1. 職場満足度調査の実施 2. 表彰制度の改定検討 3. 人事給与制度の改定検討 (教員・医師人事室) 教員・医師の自己都合による退職者を前年実績以下にとどめる。
		④看護師の雇用安定化を図る。 ⑤業務および配置人員を見直し、業務効率化と人件費最適化を図る。	人事課 ナース就職 支援室 看護部 人事課 教員・医師 人事室	1. 平成26年当初採用目標人員を確保すると共に、良質な人材を確保する。特に柏病院要員確保を最重要事項とする。 2. 人事課・ナース就職支援室・看護部の連携を強化し応募者増を図る。 3. 採用環境の的確な把握、競合する他大学の求人状況を把握し求人活動に反映する。 4. ナース就職支援室としての役割が最大限に発揮できる仕組みを確立する。 5. 4 機関看護要員の人事交流を促進する。 6. 助産師採用予定者の貸付制度を制定する。 7. 国内留学制度の見直しを行う。 (人事課) 時間外労働縮減、有給休暇取得向上 WG 活動による変形労働、業務のスリム化、風土改革の推進を行う。 (教員・医師人事室) 医療従事者勤務適正化委員会を通じて医師の業務軽減策を新たに実施し、医師の配置を効率化する。
<b>3. 事務の効率化・合理化に関する目標</b> ・ ICT 導入による効率化を実現する。 ・ 各部門間が有機的に連携する。	適正な ICT の導入事務組織の効率化	①適正な ICT グランドデザインを構築し、ICT 戦略を策定する。 ②経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行えるよう情報提供をする。 ③各部門間の連携と相互補完体制を検討する。	システム課 企画部 総務部 企画部	クラウドサービスを用いた機器統合による経費の圧縮やスマートデバイスの医療現場・教育分野における活用など情報・知識の共有を推進する 新原価計算システムによる迅速な情報提供を行う。 標準業務手順書の完成と実践を図る。

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
<b>Ⅲ. 財務の改善に関する目標</b> <b>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標</b> ・ 安定した経営基盤を確立する。 ・ 経営改善が必要な重要項目について具体的な改善対策を推進する。 ・ 経常費補助金・科学研究費補助金の獲得・増加に努める。	経常収支の状況 経常費補助金他の獲得額 経費予算と経費実績差異の減少（各部署・科目毎の誤差5%以内/除く、医療経費） 経常費補助交付額（医学部）で私立医科大学 29 校中 3 位を維持 毎年度 4 件の大型プロジェクト研究事業を維持	① 予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。 ② 経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。 ③ 本学の補助金獲得内容を分析し、増加のための対策を推進する。	経理課 理事会 研究支援課	経理システムの更新（平成26年度）に合わせ、予算管理機能を盛り込む。 大学マスタープランを策定して改善に着手する。 政府各省庁・民間財団等が公募する大型プロジェクト研究事業に大学として積極的に応募する。
<b>2. 経費の抑制に関する目標</b> ・ 物流の効率化、一括購入等により経費を抑制する。 ・ 各種資源の消費を削減する。 ・ ICT 関連経費の適正化を図る。	医療材料費削減プロジェクト削減目標の達成 医療経費率 本院の東京都温室効果ガス排出総量削減目標の達成 東京都削減目標 2013 年度～2014 年度平均 8% 削減 2015 年度～2019 年度平均 17% 削減 ICT 経費の適正化	① 物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。 ② 医療経費の抑制を図る。 ③ 地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。 ④ ICTの適正導入と評価を行う。	施設課 病院事務部 (4 病院) 企画部 薬剤部 施設課 管理課 (葛飾・第三・柏) システム課	慈恵実業と連携し、医療材料費削減プロジェクトを発足し、4病院での共同購入、安価な製品への切替え、無駄の防止を図り、経費抑制を推進する。 (病院事務部) 物流全般にわたる現行の制度を効率面且つ経済的視点から検証し、経費抑制を図る。 (葛飾) 1. 後発薬品の採用を拡大する。 2. 手術キットの内容を精査する。 3. 特殊材料の歩留まり状況を精査する。 (第三) 医療消耗品が医療収入の4.5%以内を目標に無駄な使用削減を徹底する。 (柏) 医療材料のSPD方式の手術キット、DRGセットの適正化を図り、効率化と医療経費の削減を図る。年々増加する現状を説明し、適正使用の協力を要請する。 (企画部) 4 病院全体の経費支出状況を分析し、改善点を提案する。経費率を前年度比で下回る。 (薬剤部) 医療安全面に考慮しながら、後発薬品への切替を適切に進める。 省エネ委員会を中心に、省エネ法、東京都環境確保条例遵守する。 1. 電子カルテ導入時にクラウドサービスの適用可否を見定め、機器の統合を行う。 2. 医療現場や教育分野へのスマートデバイス導入、またそれに伴うインフラ整備を行う。

中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
<b>3. 資産の運用管理の改善に関する目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学的かつ経営的視野に立った資産の効率的な運用を図る。</li> <li>・ 適正な資金運用を促進する。</li> </ul>	中期計画（施設・設備）に基づく施設・設備および機器・備品の適正管理実現 中期計画（機器・備品）に基づく施設・設備および機器・備品の適正管理実現	①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。 ②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。	施設課 施設課	管理項目を選定し（建物、ガス、水回り、電気、空調等）、現状を把握する。 1. 管理項目を選定し、（放射線機器）、現状を把握する。（4機関における放射線機器の機種、設置日、経費を一覧表にて作成出来るようにする。） 2. 中央管理している医療機器は臨床工学部と共有の電子台帳による固定資産管理運用の改善を推進させる。（共有できる機器管理システム導入を目指す。）
<b>IV. 自己点検・評価の充実に            に関する目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己点検・評価結果を公表し、改善につなげる。</li> </ul>	自己点検評価結果報告書の公開 大学基準協会認定評価の認定	①自己点検・評価を公表し、運営（中期目標・計画、支援、設備整備等）に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。 ②平成 28 年度に大学基準協会の認証評価を受審する。	総務部 大学事務部	1. 学校法人慈恵大学、東京慈恵会医科大学の情報公開を進める。 2. 大学基準協会から提言された勧告、助言項目の回答内容を公開する。
<b>V. その他事業運営に関する            重要目標</b> <b>1. 本院新外来棟建築に関する            目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本院新外来棟の建築</li> </ul>	新外来棟の建築	①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。 ②本院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。	企画部 企画部	本院新外来棟建築計画の基本構想をもとに基本計画を策定する。 1. 外来棟建築に向け、附属4病院の機能分化の方向性を検討し、骨子をまとめる。 2. 本院新外来棟建築計画の基本構想をもとに基本計画を策定する。
<b>2. 大学マスタープランの策            定に関する目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明確な長期マスタープランを策定する。</li> </ul>	マスタープランの策定	①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。	企画部	マスタープランを策定する。
<b>3. 創立 130 年記念事業に            する目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 130 年記念事業を実施する。</li> <li>・ 事業実現に必要な寄付金を確保する。</li> </ul>	記念事業募金目標 20 億円の達成	①記念事業「本院新外来棟建築を主とした西新橋キャンパス再整備」を実施する。 ②記念事業に必要な寄付金を募集する。	企画部 財務部 (募金事務局)	本院新外来棟建築計画をもとに西新橋キャンパス再整備計画を推進する。 法人先への再申し入れを行う



中 期 目 標	指 標	中 期 計 画	主体部署	平成 25 年度 事業 計画
<p>4. 大規模災害時の対応に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模災害発生時の体制を構築する。</li> <li>・BCP（事業継続計画）を策定する。</li> </ul>	<p>BCP（事業継続計画）策定と災害対策の再整備            大学全体の DMAT の構築            本学全建物の耐震基準充足（充足率 100%）            西新橋地区再整備計画に大規模災害対応を織り込む（備蓄倉庫・被災者収容対応・断水対応の井水整備等）</p>	<p>①大規模災害時の体制を強化する。</p> <p>②大規模災害に対応する施設・設備を整備する。</p> <p>③被災地への支援体制を構築する。</p>	<p>総務部</p> <p>施設課</p> <p>管理課 (4 病院)</p>	<p>1. 大規模災害発生時の新たな体制を構築し、それを基にした訓練を実施する。</p> <p>2. 備蓄食品、備品の管理方法の見直しを図る。日常在庫量、収納場所を検証し災害時の薬品全般の在庫確保と供給体制を改善する。大規模災害発生時の供給体制をメーカー毎にリストアップし供給体制を検討する。</p> <p>3. 職員の参集体制を構築し周知を図り、スタッフの出勤困難時の対応策を構築する。</p> <p>4. 災害対策マニュアルを基点として災害対策本部マニュアル、備蓄品、備蓄食の管理、抛出手法のマニュアルを策定し、訓練を実施する。</p> <p>1. 建物の現状を把握し、対応計画を策定する。</p> <p>2. 地震による建物及び什器・医療機器、実験機器の調査を行い、転倒・落下対策工事を平成25年度に行う。</p> <p>3. 機器固定等の経費として、平成25年度予算として、3,500万円を計上したことにより、西新橋校キャンパスにおける現状の大規模災害の対応は終了する。</p> <p>(管理課)            大規模災害発生時の医療支援体制整備等、社会貢献を含めた被災地への支援体制を構築する。</p> <p>(葛飾)            1. DMATを整備する            2. トリアージ訓練を実施する。</p> <p>(第三)            大規模災害発生時の医療支援体制を整備し狛江市・調布市・消防署と協力して、大規模災害訓練を実施する。</p> <p>(柏)            1. 災害拠点病院として必要となる人員及び器材の確保を行う            2. 各部署の支援可能者を把握する。</p>
<p>5. 葛飾医療センター開設後の評価を行う。</p>		<p>新病院建設後の投資効果や初期目標の達成度などの全体的な評価を行う。</p>	<p>葛飾医療センター</p>	